



海洋技術課長 田上 真正

シップ・アンド・オーシャン財団では、ソ連のゴルバチョフ大統領が1987年に、NSR（北極海航路）を国際航路とする宣言を受けて、従来は砕氷船の先導で夏季の約3カ月しか航行ができなかったこの航路の通年航行を目指す研究を行ってきました。

NSRは欧州と日本・アジア諸国を最短で結ぶ航路で、スエズ経由航路に比べて距離がほぼ半分となり、これを利用す

北極海の通年航行を目指して

「三國共同で北極海航路を調査・研究」

アとの人脈もない状態でしたが、研究者との打ち合わせを重ねるにつれ信頼関係もできて、会議中寒さをこらえるためロシアのウォッカを飲みながら会議をしたこともあります。いろいろな研究調査やNSRの運航シミュレーションを行うことによって、氷の中を航行できるアイスクラス（砕氷型）の

船であれば8カ月、その船をロシアの砕氷船が誘導すれば、技術的には通年航行が可能であることがわかってきました。

この共同研究で、ロシアの北極海の気象・海象・氷など貴重なデータの整備ができ、国際的な人脈が形成できたことも、大きな成果の一つで、今後の活動に大いに役立つと思っています。

今回の研究は平成十年度で終了、その成果を航路のユーザに知っていただくために、今年十一月にノルウェーのオスロでユーザ会議を開催する事になっています。シップ・アンド・オーシャン財団
03-35502-1968



日本財団
The Nippon Foundation

<http://www.nippon-foundation.or.jp/>

私達は、紙の売上げの3.3%を受けて、この事業を支援しています。